

映画における英語の文法構文

English Grammatical Constructions in Movies

田 畑 圭 介^{*1}

TABATA Keisuke

山 縣 節 子^{*2}

YAMAGATA Setsuko

要旨：映画のセリフには数多くの英語構文が含まれている。近年では様々な研究調査が実践され、映画のセリフデータをもとに各種の英語構文が語られている。この流れは The Movie Corpus や The TV Corpus といった英語コーパスの利便性が誘引していると考えられ、語用論や語法研究の研究材料としてその有用性が示されている。本稿では、映画やTVシリーズのセリフを用いて、Go-ing 構文、軽動詞構文、使役構文、倒置構文の基本的性質と語用論的特性について考察を行う。各構文の文法解説はウィズダム英和辞典と倉田 (2022)、セリフデータは倉田 (2022) に依拠している。

Abstract

Movie dialogues contain numerous English constructions. In recent years, various studies and surveys have been carried out to explain English phenomena based on movie dialogue data. This trend is connected with the fact that useful resources such as “The Movie Corpus” and “The TV Corpus” have encouraged the application of movies and TV series for pragmatic and grammatical research, and video materials continue to be useful and helpful in language research and analysis. Based on the trend of these linguistic analyses, this paper summarizes the English construction data found in lines from movies and TV series and discusses their pragmatic behavior. The characteristics of each construction are taken from the Wisdom English-Japanese Dictionary and Kurata (2022), and script data are from Kurata (2022). Our analysis targets Go-ing construction, light verb construction, causative construction, and inversion construction.

キーワード：映画英語 Go-ing 構文 軽動詞構文 使役構文 倒置構文

1. はじめに

映画のセリフを鳥瞰していくと、さまざまな英語構文を目にすることができる。近年では倉田 (2011, 2022) のように、英語現象を映画のセリフデータをもとに体系的に解説する著書も出版されている。The TV Corpus (<https://www.english-corpora.org/tv/>) や The Movie Corpus (<https://www.english-corpora.org/movies/>) といったコーパス検索サイトの存在が映画・TVシリーズを活用した語法研究、構文研究を後押ししていることもあり、映像資料が今後も語学の分析面および研究面で活用されることが推察される。本稿ではそうした言語分析の流れを踏まえ、映像作品から検出された英語構文データを整理し、それぞれの語用論的ふ

るまいを考察しながらまとめていく。各構文の特性およびセリフデータは倉田 (2022) 及びその別冊用例集からの引用となる。分析対象は Go-ing 構文、軽動詞構文、使役構文及び倒置構文である。

2. Go-ing

映画・TVシリーズの中で多彩な go-ing の表現を見つけることができるが、それぞれの例は厳密には異なるグループを構成している。本節では意味的に3つのグループに分け、各性質を論じることにする。まずは「～しに行く」という意味を表す go-ing である。最も馴染みのある用法であり、日常的に多用される表現である。ウィズダム英和辞典では次のようにまとめられている。

* 1 神戸親和女子大学 教育学部 児童教育学科

* 2 フリーランス

(1)

4 『go doing』

(a) 『目的』…しに行く

- ▶ go shopping ㄥ in London [at a supermarket] ロンドン[スーパー]に買い物をしに行く (ㄥ (1) * go (for) shopping to London [a supermarket] としない。(2)後に前置詞句が2種類以上続くこともあるが『比較的まれ』: go shopping ㄥ for shoes in London [in London for shoes] ロンドンに靴を求めて買い物に行く)
- ▶ go swimming in [* to] the river 川に泳ぎに行く
- ▶ go looking for the next job 次の仕事を探しに行く
- ▶ go skiing ㄥ in Switzerland [at Shiga Heights] スイス[志賀高原]にスキーをしに行く
- ▶ go hiking in the park 公園にハイキングに行く
- ▶ go skating on the pond 池にスケートをしに行く。

語法

(1) doingには主に野外活動・娯楽・探索などに関する動作動詞がくる;

→can¹ 1 a (ㄥ)

- ▶ go to study [* studying] 勉強しに行く。

(2)移動の様態を表すため、goの後にout, offなどを伴うことがある

- ▶ go out drinking 酒を飲みに出る
- ▶ go off traveling 旅行に出る。

倉田 (2022:144) では、go shopping、go looking、go swimming、go fishing、go camping、go dancing、go hiking、go hunting、go bowling、go skiing が映像作品における高頻度表現であることが報告されている。スポーツ・娯楽の活動および探索を示すものが基本となり、体の動きが伴うことが想定される表現群となる。次例は上記リストに含まれる一例である。

(2)

Mason: Mom, can I go camping with Chase tonight?

Olivia: Camping? Where?

Boyhood 『6才のボクが大人になるまで』

(2014) < 01:18:55 >

メイソン: お母さん、今夜チェイスとキャンプに行ってもいい?

オリビア: キャンプ? どこで?

(2) は母親と息子のやりとりで、息子のメイソンが友だちとキャンプに出かけたいと母親にお願いをしているシーンである。オリビアは、メイソンが発した camping を繰り返し、メイソンが言及しなかった行先について尋ねている。シンプルなやりとりの中で時間、場所、同伴者の情報が補完されており、映画・TVシリーズの典型的な会話例である。時空間および参与者に関する情報提供が行われる場面では、会話はシンプルな構成となる。

次例は go -ing を成しているが、悪い行いを表

すグループに属す表現となる。

(3)

Well, of course, nothing is 100 percent. I wouldn't go investing every penny.

The Great Gatsby 『華麗なるギャツビー』

(2013) < 00:04:32 >

もちろん、何事にも絶対ということはありません。私なら有り金を全部投資することはしません。

ウィズダム英和辞典では(4)のようにまとめられている。

(4)

(c) (話) 『否定命令文で』…するな (ㄥ特に悪い[誤っている]ことに用いる)

- ▶ Now, don't go spending your money all at once. こら、お金を全部いっぺんに使っちゃだめだ。

[否定命令文で] という文型情報が記されているが、(3)では当該箇所は命令文の形式ではない。ただ、語用論的には「…するな」という忠告を暗に伝えており、否定命令文と同じ役割を果たす表現として扱うことができる。このグループの go -ing は、悪い行いに対する忠告を伝達する機能を持っており、ストーリーの中で登場人物の悲しい末路の予兆を視聴者に知らせる発話として解釈できる。

3つ目のグループは、go (=become) + 形容詞(-ing形)の文型で、go missing「行方不明になる」や次例のような表現で構成される。

(5)

I'm looking for my father. He's 90 years old. He went wandering a few days ago.

Remember 『手紙は憶えている』

(2015) < 00:27:07 >

父親を捜しています。90歳です。数日前にいなくなりました。

このグループの go -ing は、人物の消失を表現しており、娯楽の活動を表すグループとは意味的に大きく異なるものとなる。go -ing の文法形式が共有されてはいるが、意味的には肯定的なもの

否定的なものに分類できる。よって、構文自体が画一的な意味を持ち合わせるわけではないことになる。

3. 軽動詞構文

補助的な役割をする軽動詞、have、take、makeなどと名詞を組み合わせて、名詞から同義の動詞の意味が導かれる構文が軽動詞構文である。日常的に頻繁に用いられるため、映画・TVシリーズでも数多くの例を見つけることができる。倉田(2022: 148)ではtake a walk (余暇的な活動)、take a rest (休息と睡眠)、have a talk (おしゃべりの活動)、take a bath (入浴行為)、have a meal (飲食の行為)などが示され、多様な日常活動が軽動詞構文によって表現できることが例示されている。ウィズダム英和辞典には次のような詳細な解説が見られる。

(6)

3

- (a) 【take an A】A <1つの行為> をする (1)Aは主に動詞派生の 図 で強勢を受ける; haveにも同様の用法がある; ↓ 語法 コーパスの 8 . (2)Aを主語にした受け身が可能
- ▶ Take a close(r) [good] look at the facts. 事実を(より)綿密に[よく]見てみなさい
 - ▶ I haven't taken a breath of fresh air for a long time. 新鮮な空気が長いこと吸っていない
 - ▶ They're taking a larger step forward on the problem. 彼らはその問題に関していっそう大きな一歩を踏み出しつつある
 - ▶ I haven't taken a vacation in five years. 5年ほど休暇をとっていない。

語法

1語の動詞との相違 1語の動詞と違って1回限りの完結した行為を表し、よりくだけた言い方。また、take [have] an Aはその行為を楽しむことを暗示するので、楽しむことが不可能な文脈では通例用いない

- ▶ drink some poison 毒を飲む(× take [have] a drink of poison).

さらに、前に修飾語を伴って表現を豊かにするだけでなく、動詞句部分を長くして文体を整えるのに貢献することも多い

- ▶ take a brisk [country, guided] walk きびきびと[田舎道を、案内してもらって]歩く
- ▶ take a long [little] walk 長い距離を[少し]歩く。

なお同様の用法は→give 8 b ,make 7 .

コーパスの 8 take a+ 図 とhave a+ 図

一般にtakeは〔米〕で、haveは〔英〕で好まれる傾向があるが、図によってtakeとhaveのどちらかのみしか用いられないものや一方が優勢なものもある。他方、haveとtakeがほとんど同じように用いられる 図 もある。

(1) 〔米〕〔英〕の差があるもの

- ▶ take (主に米) [have (主に英)] a look 見る
- ▶ take [have] a walk 散歩する (1) takeは〔米〕で好まれ〔英〕では〔かたく〕響く; (主に英) ではgo for a walkの方が好まれる)

(2) take / have のいずれかに偏りのあるもの

- ▶ take [have] a break ひと休みする (1) (米) (英) 共にtakeが優勢)
- ▶ have [(主に米) take] a drink 飲む (1) (米) (英) 共にhaveの方が優勢)

(3) take / have をほぼ同じように用いるもの

- ▶ take [have] a seat 座る
- ▶ take [have] a ride 乗る (1) go for a rideの方が優勢)

(6) の語法の囲み欄には、軽動詞構文は「その行為を楽しむことを暗示するので、楽しむことが不可能な文脈では通例用いない」と記載がある。映像作品の実例を見てみる。

(7)

Eamon: Let's go for a spin and have a listen in me car.

Guy: Great, man.

Band Member: Yeah.

Eamon: Go have a ride, yeah?

Once 『ONCE ダブリンの街角で』

(2006) < 01 : 10 : 28 >

エイモン: 「ひとつ走りして俺の車で聞こう。」

男性 (主人公): 「いいね。」

バンドメンバー: 「わかった。」

エイモン: 「乗りに行こう、いいね?」

(7) では二つの軽動詞構文が使われていて、この場面では、音楽を聴く、車に乗る、の二つの娯楽的活動が表現されている。活動内容は楽しめる行為に限られ、疲労や苦勞につながる活動に関しては当該構文が用いられることはない。前述のtake a walk、take a restといった活動群も日常的な楽しみにつながる意味内容となっている。ちなみに(7)一行目のme carはアイルランド英語で、my carと同義となる。

続いての例は飲食の表現である。

(8)

Would you like to stop somewhere and have a drink?

The Curious Case of Benjamin Button

『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』

(2008) < 00 : 48 : 52 >

(移動中の車内) どこかで止まって、少し飲みませんか?

have a drinkは映像作品では、大人の相手を誘うときの定番表現の一つとなっている。軽動詞構文は娯楽的要素を含む活動を表現することから、映画・TVシリーズでは自分自身で楽しむ活動を表現するのではなく、聞き手を娯楽活動に誘うシーン

での使用の方が一般的である。軽動詞構文は楽しむ行為に聞き手を誘い混む際の定型表現ということになる。(9)は相手に見るように促す発話で、視聴の活動へと誘う例である。

(9)

Boys! You might want to take a look at this.

Puss in Boots 『長ぐつをはいたネコ』

(2011) < 00 : 45 : 52 >

君たち、これを見ておいたほうがいいかもよ。

下線部全体で一つの定型表現と解釈でき、「ちょっと」という意味が含まれ、look at よりも丁寧に響く特徴を備えている。(9)で使用されているmight want toは、倉田(2022:25)で言及があるmay have toと同じように助言を意図する婉曲表現となる。相手との関係性を意識し、提案の響きを適度に和らげた表現は、会話を円滑に進めるコミュニケーションツールとして有効である。

4. 使役構文

使役動詞と呼ばれる【主語+_____+目的語+動詞の原形】の構文をとる動詞として、make、have、letがある。getについては【主語+_____+目的語+to+動詞の原形】となりtoを従える点で前者と異なっている。各動詞は基本的に「…させる」という意味を表すが、次のような意味上の差異が見られる(倉田2022:170)。

(10)

make 「物事が人に無意識に…させる」「人が強制的に人に…させる」

have 「指示や職務を遂行する立場の人に…させる、…してもらう」

let 「その人が望むように…させる」

get 「(頼んで/説得して)人に…してもらう」「努力して人に…させる」

倉田(2022:170)には、映像作品にみられる高頻度の使役構文の例が列挙されている。

(11)

make:

What makes you think (that) ... ?

なぜ... だと思うのですか。

It makes me feel good [better, sad, bad] .

それは私を気分よく [よりいい気分に、悲しく、悪い気分に] させる。

have:

I'll have you know (that) ... 言うておくが...

Have him call me. 彼に私に電話をさせて。

Have her give me ... 彼女に私に... を渡させて。

let:

Let me see ええっと

I'll let you know をあなたにお知らせします。

Let me know if であればお知らせください。

Let me see that [your ...]. それ [あなたの...] を見せてください。

Let me ask you a question. あなたに一つ質問があります。

get:

I tried to get him to 私は彼に... させようとした。

How did you get her to do that? どうやって彼女にそれをさせたの?

makeは「無意識に... させる」が代表的意味で、haveは、「すべき人に... させる」、letは「話し手の希望を実現させる」機能を担う。getについては強制的な使役ではなく、「相手に承諾の最終判断を委ねつつ... させる」ことを意味しており、対話の場面では強制的なmakeに比べると出現頻度は高いことが推察される。What can I get you to drink? (飲み物は何にしますか?) のgetも相手の判断を仰ぐ表現形式の一つである。

本稿でまとめた各使役動詞の特性が妥当なものかどうか、映像作品の実例と照らし合わせてみる。

(12)

What makes you think you can do that?

I am Sam 『I am Sam アイ・アム・サム』

(2001) < 01 : 30 : 15 >

なぜそれができるとお思いですか。

makeには「強制的に...させる」の意味もあるわけだが、映画・TVシリーズでは「無意識的に...させる」の用法のほうがより多く検出される。相手との関係性を維持する上では、強制的なmakeの使用は極力避けられるわけなので、(12)のような無意識のmakeの使用率が高くなることは自然である。(12)では理由を客観的に尋ねていて、Why...?よりも丁寧に響くことになる。丁寧な言い回しが高頻度となることは現実の社会でも一般社会を描いた作品の世界においても共通だといえる。実際、共通性が見いだせなければ、作品の理解に障害が生じることになり、視聴者が作品の世界に没頭することが難しくなる。現実の社会で頻繁に使用される、丁寧度が意識された表現を映像資料として映画・TVシリーズから抽出し、英語教育の場面で活用することは学習者にとって有益であり、また実践的な学習につながるようになる。

haveについては、業務的な依頼が中心となり、主語の人物よりも社会的立場が同等か下の者に対しての依頼が中心となるが、have a doctor check me out (医者に見てもらおう)のような職務の場合は立場の上下は無関係となる。したがってhaveは「すべき人に...させる」という解釈が適切となる。

(13)

I'll have someone come repair this immediately.

The Great Gatsby 『華麗なるギャツビー』

(2013) < 00 : 56 : 06 >

すぐに誰かにこれを直しに来させるよ。

haveを使用した使役構文では、使役の受け手は依頼を遂行できる、あるいはすべき立場にいる人物となり、無意識のmakeと同様に相手との関係性が悪化する結果に至ることはない。「...させる」を意味する使役動詞であっても、相手への配慮が見られる部分が映像作品における無意識のmakeの使用域と一致している。

letは話し手の希望を実現させる表現である。let自体は「...するのを許す」「...するのを許可する」といった意味となる。

(14)

Let the boy have \$10, Troy.

Fences 『フェンス』 (2016) < 00 : 19 : 19 >

その子に10ドルをあげて、トロイ。

お願いの気持ちが前面に現れ、強制の意図はなく、且つ可能な範囲の依頼となる傾向が見られる。実現不可能な依頼のやりとりは非生産的であり、(14)では決定権のある聞き手に対して実現可能な依頼を行っている。

getは「相手に承諾の最終判断を委ねつつ...させる」という意味で用いられる。

(15)

Batman: If I get him to you, can you get him to talk?

Harvey: I'll get him to sing.

The Dark Knight 『ダークナイト』

(2008) < 00 : 26 : 59 >

バットマン：「もし彼をあなたのところに連れてきたら、彼に話させることはできるのか。」

ハービー：「彼に白状させるよ。」

getの構文では相手側に承諾の最終判断を委ねることから、行為の遂行には努力が伴うことになる。(15)のsingは「(警察に)たれ込む」という俗語表現であるが、実現したい行為は対象者にとって不利益となる内容である。(11)のgetの用例からも把握できるが、遂行する行為はletに比べ、比較的容易ではない活動内容が後続する動詞によって表現される。映像作品の中では、登場人物の度量を測る機能を成しているようにも感じ取れる。

5. 倒置構文

本構文では、重要な情報を表す主語を文末に置き、当該場面で主語の存在の重要性が情報構造の流れに沿って示される。通常の文と異なり、主語は文末に位置するため、長くなる主語も自然に響く特徴がある。

(16)

At the top of the hole sit a privileged few.

Sweeney Todd: The Demon Barber of Fleet Street
『スウィーニー・トッド フリート街の悪魔の理髪師』(2007) < 00 : 04 : 49 >

穴のてっぺんには特権階級のわずかな人間が座っている。

(17)

In the beginning was the heaven and the earth, and the earth was without form, and darkness was upon the face of the deep.

The Theory of Everything 『博士と彼女のセオリー』(2014) < 00 : 18 : 34 >

初めに天と地があって、地には形がなかった。暗闇が深淵(しんえん)の表面にあった。

前置している表現は(16)では場所を示していて、(17)では時を示している。前置される表現には次のように多様性が見られる。

(18)

- a. Gathered pointlessly in the yard stood three women.
- b. Busy at the lathes sat three women.
- c. Conspicuously absent was Mary.
- d. Even closer came a python.
- e. Spilled all over the floor lay pinto beans.

(Bresnan 1994 : 76)

(18)で文頭に移動しているのは(16-17)のような前置詞句ではなく、形容詞や副詞表現である。ただ、(16-18)を見ると、前置表現は全体として文末主語の位置に関する情報を表しているように解釈できる。場所情報の表現が前置されることで当該構文が形成されるが、動詞の選択制限が場所情報を求めない場合は非文となる。

(19)

- a. *Gathered pointlessly in the yard seemed three women.
- b. *Busy at the lathes kept three women.
- c. *Conspicuously absent became Mary.
- d. *Even closer seemed a python.

e. *Spilled all over the floor got pinto beans.

(Bresnan 1994:76)

よって、倒置構文は場所情報を必要とする動詞が用いられていることが条件となり、主語が文中で重要な役割を持つことも必須となる。主語の重要性は、後置主語が代名詞にはならないこと、また他動詞を用いて主語が不明瞭になると非文となることから裏付けられる。¹

(20) *Outside the house stood them.

(21)

- a. My friend Rose seated my mother among the guests of honor.
- b. *Among the guests of honor seated my mother my friend Rose.
- c. *Among the guests of honor seated my friend Rose my mother.
- d. A lucky hiker can find the reclusive lyrebird in this rainforest.
- e. *In this rainforest can find the reclusive lyrebird a lucky hiker.
- f. *In this rainforest can find a lucky hiker the reclusive lyrebird.

(Bresnan 1994 : 77)

倒置が起こった文で後置主語が注目される環境が整っているかどうか倒置構文の容認性に密接に関係しているが、主語よりも動詞の意味内容が文中で際立っているときには主語の注目度が結果的に低下して非文と判定されることになる。

(22)

- a. Among the guests was sitting my friend Rose.
- b. *Among the guests was knitting my friend Rose.
- c. Onto the ground had fallen a few leaves.
- d. *Onto the ground had spit a few sailors.
- e. Into the hole jumped the rabbit.
- f. *Into the hole excreted the rabbit.
- g. Toward me lurched a drunk.
- h. *Toward me looked a drunk.

- i. On the corner was standing a woman.
 j. *On the corner was drinking a woman.
 (Bresnan 1994 : 78)

Bresnan は潜在的な主題 (implicit theme) が主語として具現化していないことが (22) の非文の要因になっていると説明している。Bresnan は (21) については他動詞自体が当該構文で容認されないとしているが、主語の注目度の確立を認可条件とすると、(21-22) の文法性は統一的に取り扱うことができる。(23) の受け身文についても同様に、動詞直後の主語が際立っていないことが容認度の低下を招いていると考えられる。²

- (23)
 a. ??Among the guests of honor was seated my mother by my friend Rose.
 b. ??In this rainforest can be found the reclusive lyrebird by a lucky hiker.
 c. ??On the table has been placed a tarte Tatin by Susan.
 (Bresnan 1994 : 78-79)

主語が際立つ環境が整えば、倒置構文の受け身文は文法的となる。

- (24)
 a. My mother was seated among the guests of honor.
 b. Among the guests of honor was seated my mother.
 c. The reclusive lyrebird can be found in this rainforest.
 d. In this rainforest can be found the reclusive lyrebird.
 e. A tarte Tatin has been placed on the table.
 f. On the table has been placed a tarte Tatin.
 (Bresnan 1994 : 78)

また次のような受け身文も可能となる。(25) の for 句は主語句の中に含まれる修飾表現として解釈できる。

- (25) In these halls were fought tremendous battles for equal rights. (Bresnan 1994 : 79)

(25) は長い後置主語でも自然に響くことを示す例でもある。主語の意味内容を文中で際立たせるために倒置現象が起こり、場所情報の表現が前置されることになる。本節で示した映像作品の実例も当然ながら構文が成立する要件を満たしている。映像作品では視聴者に主語の存在を強く認識させることが倒置構文を使用する要因となっている。

- (16) At the top of the hole sit a privileged few.
 (17) In the beginning was the heaven and the earth, and the earth was without form, and darkness was upon the face of the deep.

6. 終わりに

本稿では、Go -ing 構文、軽動詞構文、使役構文及び倒置構文を取り上げ、それぞれの構文が使用されている実例を映画・TV シリーズのセリフから引用しながら、映像作品における構文の役割について考察を行った。スク립トライターが通常の文と異なる、ある種特別な構文を使用するのは、その背後に何かしらの意図があるためだと推測できる。構文ごとの基本的な役割に加え、映像作品では、いかに視聴者の注意を引きつけるかが重要となり、各構文は特有の役割をはたすために自然なかたちで、あるいは視聴者をくぎ付けにするために用いられる。構文の使用がドラマチックな展開の火付け役となり、シーンの背景と音楽、登場人物たちの表情と演技を融合させながら、視聴者を作品の世界に誘い込んでいるわけである。各セリフの輝きは、構成する語とともに英語構文もその担い手となっていることが本稿の議論から導かれる。語彙やイディオムとともに、使用されている構文に着目することは、当該構文の本質的機能とともに語用論上の発展的なふるまいの探求につながることになる。映像作品に基づく構文研究は、各構文の実践的な役割を明らかにしてくれる研究手法といえる。

注

1. 先行研究では、直示代名詞 (deictic pronoun) が後置主語として用いられた場合は容認されるこ

とが報告されている。

(i)

Among the guests of honor was sitting HER
[pointing]. Birner (1994 : 253)

2. ただし、主語の際立ちによってすべての場所句倒置構文の現象を説明できるわけではない。例えば不定節では場所句倒置構文は生じることはない。

(ii)

- a. I expect that on this wall will be hung a picture of Leonard Pabbs.
b. *I expect for on this wall to be hung a picture of Leonard Pabbs.
b'. On this wall is likely to be hung a portrait of our founder.
c. *I expect on his wall to be hung a picture of Leonard Pabbs.
d. *I anticipated on this wall being a picture.
(Bresnan 1994 : 108)

こうした現象については、不定節の PRO をコントロールする機能が場所句にないためだと Bresnan は説明している。場所句倒置構文では(ii)のような統語的現象と5節で論じた語用論的現象が観察され、各領域に沿った説明が求められる。(ii)で非文となっている文は文末主語が文中で十分際立っていないとする語用論的な説明が可能かもしれないが、それは(iiib')にも当てはまるように感じられる。

場所句倒置構文を助動詞を用いて疑問文化できない現象についても統語論的な説明が求められる。

(iii)

- a. Do you remember? *Did on the wall hang a Mexican serape?
b. *Was among the ruins found a skeleton?
(Bresnan 1994 : 108)

また場所句が動詞と一致現象を起こさないことも統語的現象の一つである。

(iv)

- a. *Down through the hills and into the forest FLOW the little brook. (Levine 1989 : 1015)
b. *In dry open country and along the roadside ARE found the turkey culture. (Bresnan 1994 : 110)

文献

- Birner, B. (1994) Information Status and Word Order: An Analysis of English Inversion. *Language* 70, 233-259.
Bresnan, J. (1994) Locative Inversion and the Architecture of Universal Grammar. *Language* 70, 72-131.
Levine, R. D. (1989) On Focus Inversion: Syntactic Valence and the Role of a SUBCAT List. *Linguistics* 17, 1013-55.
井上永幸・赤野一郎(編)(2019)『ウィズダム英和辞典第4版』東京：三省堂.
倉田誠(編)(2011)『映画で学ぶ英語学』東京：くろしお出版.
倉田誠(編)(2022)『映画でひもとく英語学』東京：くろしお出版.